

広報ただみ診療所

朝日診療所

医師 森 冬人



「今年1年を振り返って」

今年もまもなく終わりです。ほとんどの方が新型コロナに振り回され、大変な1年だったかと思います。

今年春、常勤医師が2名になり看護師も減りました。多くの町民・患者さんから診療所スタッフへ温かい言葉をかけて頂き、大変ありがたく思っています。患者さんから「先生も体調気をつけて」と声をかけてもらう事ばかりで恐縮でした。ただ診療所に配慮して、体調が悪いときに来院を我慢されたような方もときどきいらっしゃいました。平日日中はもちろんですが、土日祝日も昼間は急患対応をしています。困ったときは診療所までご連絡下さい。

さて、皆さんは今年1年「健康」だったでしょうか。「健康」は結構難しいものです。病気も障害もない若い人でも、友人がいない、職場で居場所がなくて孤独なとき「健康」でしょうか。重い病気があって人の世話にならないといけない人でも、できる範囲で仕事や趣味を楽しみ、友人や家族と団らんを楽しめる人は「不健康」でしょうか。

健康は幸せに生活するための財産です。健康という財産が多い人も、少ない人もいます。私たちは健康という財産を上手につかって、日々生活しています。健康が大事な財産だとは若くて元気な人は気づきにくいですが、私も今年はひどい虫歯で一度休んでしまいましたが、健康(と歯科の先生やスタッフ)が大事だと改めて気づきました。

診療所は町民の皆さんの健康維持・病気の予防や治療をしています。そして、ひとりひとりの健康という財産を使って、皆さんがどうやって幸せに生活できるか一緒に考える立場でありたいと思っています。町内の保健・福祉・介護関係者もきっと同じように考えているでしょう。町内の多くの方に、「診療所とあさひが丘に行けば何でも相談できてよかった」と思えるように頑張ります。

診療所の看護師も春よりは増えました。来年は、世界的にも只見町としても明るい知らせが多いことを願います。今年も1年ありがとうございました。

地域おこし協力隊として

vol.72

只見町教育振興協力隊

すずき ゆうじ
鈴木 裕司



「コロナ禍の中でも」

2020年はコロナで始まり、未だ収束が見えない中、年の瀬を迎えます。町の行事の多くが中止や縮小して実施されるなど、寂しい1年ではなかったでしょうか。

『新しい生活様式』が少しずつ浸透しマスクは百貨店やショッピングモールに専用の売り場が出来るほど。マスクの着用は、服を1枚羽織るような感覚で身につけるよう定着しました。けれどマスクを着けると圧迫感や気持ちが中々前向きにならないことがあります。

そんな時、自分なりの気分転換法。それは洗って繰り返し使えるご当地マスクを見つけ着けること。例えば宮城の“むすび丸”のキャラ入り、東北楽天イーグルスのロゴ入りや母校の襟章入り、水着生地や会津木綿のマスクetc10種類以上あるマスクの中で一番のお気に入りには赤べこをモチーフにした会津のゆるキャラ“あかべえ”入りのマスク。

ご存知の通り赤べこは会津地方で昔から縁起物・郷土玩具として親しまれ、赤は魔除け、厄除け(赤べこを近くに置くと疫病から逃れられる伝承)コロナ

除けやお守りとしても人々に愛されています(赤、と云えば町のアカショウちゃんのマスクがあれば嬉しいです)。

これから高校3年生は進路に向かって大学入学共通テストや各種試験、中学3年生は高校入試が控えます。試験によってはマスク着用を義務付ける場合もあります。そんな人生の大事なイベントにお守りと一緒に縁起を担ぐマスクや、お気に入りのマスクを着けて日頃の成果を発揮してはいかがでしょうか。

只見に来て半年が過ぎました。桜、新緑、紅葉など自然の豊かさを感じています。そして迎える冬。今年にはラニーニャ現象で雪が多いのでは、という予報もある中、山村留学1年生と自分は只見の冬、初体験。コロナ禍も続き不安もありますが、次にこのコラムを寄せる頃はまた新たな山村教育留学生を迎え穏やかな春が訪れているよう願うばかりです。